



ロータリー財団は1917年米国ジョージア州アトランタで開催された国際大会で第6代RI会長のアーチ・C・クランフ氏が「全世界的な規模で慈善、教育、その他社会奉仕の分野でよりよい事をするために基金を作ろう」と提案したことに始まり、1928年国際大会でロータリー財団と名づけられ、1931年に信託組織となり、1983年に米国イリノイ州法の法令の下に非営利財団法人となりました。

RI理事会と、管理委員会は、毎年11月はこの月間を遵守すること、月間中、クラブは少なくとも1つのクラブ・プログラムを財団のために実施することを決定しました。

月間中は、ロータリー財団補助金受領者その他（例えばロータリー財団国際親善奨学生など）が、クラブ例会や教育機関や地域社会の会合で、ロータリー財団について講演するよう、示唆されています。財団の奨学金事業、および、人道的諸事業についての知識と理解を深め、財団の推進に役立つプログラムを実施してください。

（ロータリアン必携「ロータリー情報マニュアル2007」より）

## ■毎年11月はロータリー財団月間です

松本新太郎Gのテーマは「ロータリークラブについてもう一度考えて見ませんか」です。私はロータリー財団月間を迎えるにあたり「ロータリー財団についてもう一度考えてみませんか」とご提案致します。

RI元会長のバート・バース氏はこう語っています。

ロータリーの襟ピンを付けている人は、次のようなメッセージを発信しているのです。『あなたは私を信頼することができます。私は頼りになります。私は信用に値します。私は受けるよりも多くを与えます。私はいつでもお手伝いします』

またグレン・エステス前財団管理委員長はこう語っています。

ロータリー財団のおかげで、世界中の人々は、必要とあればロータリーを頼りにできると知っています。助けを求められたとき、ロータリアンがこれに応えられるのも、財団があるからです。財団がなければ「私にできること

はありません」と言って断るほかありません。

私たちが、新入会員としてロータリークラブに入った時のことを思い出して見たいと思います。「奉仕の理想」を歌い、諸先輩の話を聞いたとき「自分はロータリアンの助けを必要としている誰かのために何とか力になろう」という決意をお持ちになられたことと思います。このことは正しくロータリーの原点ではないでしょうか。その時の気持ちを思い出して、もう一度ロータリー財団について考えてみましょう。

ロータリー財団は90余年の歴史の中で、目覚ましい発展を遂げています。その資産は7億ドルに達しており、今日までに115カ国以上の47000人以上の奨学生を援助してきました。民間団体として、世界最大の奨学金です。マッチング・グラントの件数は29000件を超えています。またロータリー財団は1985年のポリオ・プラス・プログラムの発足以来、20億以上の子供たちに経口ポリオ・ワクチンを接種してきました。

このように輝かしいロータリー財団の業績の担い手は誰でしょうか？ロータリアンです。これまでロータリアンの奉仕活動に提供された資金は20億ドルに達しています。資金の提供者は誰でしょうか？ロータリアンです。

私たちが「奉仕の理想」を実践できるのは、ロータリー財団による恩恵です。そのロータリー財団を支えているのはロータリアンです。

ロータリー財団月間を迎えるにあたって、私たちは今一度ロータリアンとしての誇りを自覚したいものです。ロータリアン一人ひとりの寄付は巨大な金額となって、ポリオを初めとする疾患の予防や治療、母子の保健、水と衛生、識字率などの改善を積極的に進めて行く活動に直接結びついていることを誇りとしましょう。それを認識することがロータリー財団月間の最大の目的ではないでしょうか？

このようなしっかりした認識を持つことが出来れば、皆様の130ドル以上の年次寄付は、必ずや生きた寄付金となるに違いありません。